

北海道下川町より 高鷲開拓記念館へ学芸員訪問

令和7年7月19日(土)から20日(日)にかけて平成16年まで姉妹都市提携を結んでいた北海道上川郡下川町から二人の方の視察を受けた。視察者は、下川町教育委員会学芸員の佐藤友香さんと國學院大學栃木短期大学准教授の吉村風氏の二人であった。

19日は高鷲振興事務所永瀬所長とたかす開拓記念館の上村強氏とが案内して、白鳥町の白山文化博物館と長瀧寺を見学と参拝した。その後、「たかす開拓記念館」を視察し、上村氏が高鷲や郡上の各満州開拓団展示と下川町の展示や蛭ヶ野開拓等の展示内容の説明と開拓の民具を説明した。

五郎平で夕食後、「高鷲の拝殿踊」の見学をした。踊り手は鷲見の川端伊津美さん等4人であったが、令和7年1月24日に国重要無形民俗文化財に指定された「白鳥拝殿踊り」が江戸時代の中頃からお盆に踊られ、毎年7月から9月に各神社の拝殿で踊られている。高鷲町でも鷲見の川端さんたちが白山神社の拝殿踊りを復活された。拝殿踊りは、楽器を使わず、下駄を踏みならず足音と唄だけで音頭を取るのが特徴で、その点バショ踊りと同じであるが、拝殿で踊るか、境内で踊るかの違いである。踊りの種類は白鳥踊りや郡上踊りと同じ演目を唄と手拍子だけで踊られ、白山民謡文化圏の古い種目を伝えており歴史的価値は高い。

話は拝殿踊りだけでなく、高鷲の盆踊り一般についても触れられた。



(水上精榮氏撮影)

20 日は、参議院選挙投票日の日であったので、案内者は上村強氏だけであった。この日は朝から日差しが強く、熱中症に気をつけながら、切立明野高原の大根畑及び大根の洗い場等を案内して高鷲の「農業に立地した観光」(三白産業)の一環を見学し、次に、山びこロード沿いにある「NAO」や鷲ヶ岳スキー場、ホワイトピアノスキー場などの観光産業を視察し、今回の目的の一つである鷲見地区へ向かい、薬師堂と鷲見白山神社を見学・参拝した。

薬師堂は、教願寺北側の道路沿いにある鷲見老人憩いの家の横にある木造茅葺きで正方形の特異な堂宇である。建造物、仏像、灯籠、狛犬、絵馬等があり、江戸時代中期のものとおもわれる。堂宇の南側には清水が湧きでている。

鷲見白山神社は祭神が伊弉諾尊、伊弉冉尊、菊理姫命で、正応 3 年(1290)鷲見村の山口才三郎という者が長滝村の長瀧寺から白山神社の分霊をいただき、貞享 9 年(1692, 元禄 5)まで自宅でお祀りしていた。同年鷲見村人々の信仰心によって現在の地に社殿を建設し、村社として崇めたと伝えられている。

その後、鷲見上野の「ひるがの高原大根」出荷場を見ながら蛭ヶ野サービスエリアで昼食を取り、再び「高鷲開拓記念館」に戻った。

20 日の午後は、高鷲文化財保護協会との懇談会であった。文化財保護協会からの出席者は、水上精榮会長、山下直樹副会長、平井道則副会長、福手均理事、鷲見尚武顧問の 5 人で、懇談会は水上会長の挨拶からはじまり、視察者からの質問に対して文化財保護協会側が答えるという形式で行われ、内容は以下のとおりであった。

- ①高鷲の生活と風習について
自然環境、開拓の民具、開拓の絆
- ②村人の一生
子供の遊び、二人の出会いから婚礼まで、出産から、家族の団らん
- ③三白産業
大根の白、酪農牛乳の白、スキー場雪の白
- ④高鷲の年中行事
春、夏、秋、冬
- ⑤祭礼
鮎走白山神社の大神楽、切立白山神社の大神楽、大鷲白山神社の大神楽
西洞白山神社の大神楽、鷲見白山神社の大神楽、ひるがの白山神社の大神楽
- ⑥開拓記念館内の下川町関係展示について
- ⑦満州開拓について
琿春高鷲村開拓団
- ⑧学校教育について
小学校、中学校

最後に、下川町の佐藤学芸員、國學院栃木短大准教授の吉村先生から御礼の言葉と 2 日間お世話になったという感謝の言葉をいただいて、散会した。



(水上精榮氏撮影)